

トビタテ選考体験記（18期・ダイバーシティコース）

学部・研究科：医学部医学科

学年：4年（応募時）

【トビタテ応募前】

・トビタテを知ったきっかけ

高校の時に、トビタテ留学をしている友人がいたため、トビタテの制度自体はその時から知っていました。大学に入ってから地域医療に関心を持って課外活動をするようになり、そこでお会いする先生や先輩にトビタテ生が何人もいて、自分も挑戦したいと憧れるようになりました。

・応募しようと思ったきっかけ

大学入学前から漠然と「大学生のうちに海外留学がしたい」と思っていました。しかし、当初は医学部には長期の交換留学制度がないため、留学は難しいと諦めていました。その後、トビタテ生の先輩と話するうちに、トビタテでは自由な留学計画が組めることを知り、医学部のカリキュラムを言い訳にせず、自分も留学に挑戦しようと思うようになりました。さらに、挑戦を応援し合うトビタテのコミュニティにも憧れを抱き、応募を決意しました。

・情報収集はどのように行ったか

選考については、トビタテが公式に行っているオンライン説明会に参加したほか、トビタテ生が運営しているInstagramやYouTube、noteなどを見て情報収集をしました。制度については、公式の募集要項などを読み込んだり、トビタテが生まれた経緯がまとめられた『トビタテ！世界へ』を読んだりして、理解を深めました。分からないことや具体的な準備のスケジュールについては、トビタテの先輩に個別に相談していました。

【トビタテ応募にあたり（書面審査対策）】

・応募へ向けてどのような対策をしたか

約3か月前から書類作成をはじめ、約1か月前からはキャリアセンターの個別相談を利用しました。締切直前まで何度も応募書類を添削していただき、大変感謝しています。自分ではうまく書けたと思っていても、客観的に見ていただくことで、伝わりにくい表現や一貫性の不足に何度も気づかされました。個別相談では、どうしたら想いが伝わるか、親身になって一緒に考えていただきました。

また、先輩トビタテ生にも書類を送って添削をお願いし、アドバイスをいただきました。異なる期・コース・分野の先輩に見ていただいたことで、多様なアドバイスをいただけたので良かったです。トビタテ生のnoteを読み漁り、書類作成で心掛けたいポイントをリストアップしたり、個別にご連絡して実際の応募書類を見せていただいたりもしました。

・計画書を作成するにあたり心がけたこと

一番心掛けたのは一貫性です。白紙に「自分がやりたいことと原体験」「自分の強み」「社会から求められていること」を書き出し、それらが一つの軸で語れるように整理してから、書類作成にとりかかりました。私は「あれもこれも」と手を広げて書いてしまい、説得力のある軸を持たせるのがあまり得意ではなかったため、できる限り多くの方に目を通してもらい、アドバイスをいただくことを意識しました。また、何枚も応募書類を読む審査員のことを考え、少しでも目を引くように応募書類の背景を自分の好きな黄色に統一しました。

【トビタテ面接にあたり（面接審査対策）】

・面接に向けてどのような対策をしたか

個人面接、グループ面接ともに、大学で対策をしていただきました。就活をしていない私にとって、トビタテに合わせたポイントはもちろん、面接の一般的なマナーについてもフィードバックをいただき、大変勉強になりました。神戸大学のトビタテ17期の先輩方ともつないでいただき、先輩たちに面接練習を見ていただいたりもしました。直近の先輩からは、前年に気を付けておられたことや意識されていたことを直接お聞きでき、とても参考になりました。また、書類結果発

表後には、LINE のオープンチャットで対策用グループを作ってくださった方がいて、そこで一緒に面接に挑戦する同期と出会い、何人かと個別に練習会を行いました。また、トビタテ有志の先輩がオンラインで開催してくださっていた面接対策会にも参加しました。面接では、「自分が学びたい」「やってみたい」だけではなく、「留学にどんな価値があるのか」「日本に何を還元できるのか」「諦めずに達成する熱意があるのか」が伝わるように、事前に整理しておくのが大切だと感じました。

- ・当日の様子や個別面接、グループ面接の状況

当日は、事前の面接練習で知り合ったトビタテ受験生と、近くのスターバックスで直前の面接練習をしました。同じスターバックスには受験生らしき人がたくさんいて、不思議な一体感のある空間でした。面接会場についてからも、周りの初対面の受験生と「一緒に頑張ろう」と励まし合える雰囲気、緊張しつつも安心して本番を迎えることができました。

個別面接は、面接官のお二人ともとても温かく、和やかに進んでいきました。これまで考えてきたことや、自分が目指していることをお話しし、コメントをいただける機会は、面接であることを忘れるほど、わくわくしながらお話しすることができました。

- ・二次審査に臨むにあたり心がけたこと

トビタテ生の選抜条件にもあるように、「情熱」「独自性」「好奇心」の3つを意識し、それぞれが伝わるよう、話し方と内容の両面をブラッシュアップしました。グループ面接では、皆さんの留学計画を楽しんで聞きつつ、「もっと良くするにはどうすればいいか」「自分の分野と掛け合わせると何ができそうか」を意識して話しました。

個人・グループともに時間はあっという間に過ぎたので、これから面接に挑む方には、楽しみながら生き生きと話すことを大切にしてほしいです。

- ・面接の質問内容・議論内容

面接では、初めに留学計画を話すよう言われました。時間制限はなかったので、事前に用意してきたスケッチブックにスライドを貼った資料を使い、7分程度で話しました。事前情報から、スケッチブックを使って留学計画のプレゼンをする人が多いと聞いていたので、私も3分・5分・7分・10分のどの長さでも話せるよう準備しました。その後プレゼンの内容についていくつか質問されました。質問は、私の考えや背景にある想いが中心でした。それ以降は、留学先で紹介できそうな方を教えていただくなど、終始笑顔であたたかく進行していただきました。個人面接の内容は、コースや面接官によってさまざまと聞くので、ぜひ多くのトビタテ生の体験記を読んでみてください。

グループ面接は、一人ずつ留学計画を3分で話し、その後、順番に両隣の人へ質問したり、アドバイスしたりする流れでした。こちらも終始和気あいあいとした雰囲気で行って進んでいきました。

- 【その他】

- ・これから申請する学生へのアドバイス

トビタテで出会った同期や先輩・後輩、そしてトビタテに関わっておられる文部科学省の方々は、みなさんそれぞれに挑戦を続けながら、他の人の挑戦も全力で応援する素敵な人たちばかりです。こうしたコミュニティに出会えたことが、私にとってトビタテに応募してよかったと思う一番大きな理由の一つです。

私は昨年もトビタテに応募しましたが、書類審査で不合格でした。今回は2回目の挑戦で合格することができました。応募準備は大変で、倍率も高く、くじけそうになることもあるかもしれませんが、自分の想いを伝えるために書類・面接の準備や対策をする過程だけでも、大きく成長できると思うので、迷っている方がいたらぜひ挑戦してほしいです。トビタテの先輩やお世話になっている大人たちにたくさん頼って合格させてもらったので、私もこれからトビタテを目指す方たちにむけて、できる限り力になりたいと思っています。選考のことを思い出しながら、できる限り詳しく書いたつもりですが、まだ書ききれていないこともたくさんあると思います。もし相談したいことがあれば、ぜひ気軽にご連絡ください。心から応援しています！